皆の広場

素人の神話考⑤「インド神話遺産(アンコール王朝)」

自文科 永野 徹

【1】「アンコール王朝の歴史と遺跡」(カンボジア)

H22.6.1

(1) まえがき

アンコール王朝(ワット・トム)とは

はじめに インドの神々・仏陀の遺跡はアンコールワットとかボロブドール等周辺国でも著名である。最も有名な仏教、ヒンズー教の遺跡が本国のインドだけでなく、カンボジア、タイ、中国、日本、韓国、インドネシア等アジア周辺国にあることはこれ等の文化・宗教の偉大さを新めて感じるものです。

カンボジア インドシナ半島の中央に位置するカンボジアはメコン河とトンレサップ湖付近を中心とした農業国である。首都はプノンペンで公用語はクメール語、面積は日本の約半分18万Km²で人口は約1330万人の国勢。カンボジア最大の見所は世界文化遺産であるアンコールワットとその周辺の遺跡で、ジャングルの奥深く埋もれていたクメール人の遺産である。

(2) アンコール王朝の歴史

1) 概要

①802年～

①クメール王国 802年～ カンボジアは紀元1世紀ころ、南部の扶南国を中心に繁栄していたが、同じころメコン河中流域を領地として繁栄していたクメール人が4世紀頃に南進し7世紀前半には現在のカンボジアを領域を支配し、802年ジャヤヴァルマン2世がアンコール王朝を建国。続いて、インドラヴァルマン1世が都城を現在のロリュオス遺跡に移動し、その後889年ヤショーヴァルマン1世がバケン山のヤシダラプラに都を移した。

②アンコールワット

1113年～

ヤシダラプラに都城や寺院、祠堂、用水池が300年に渡って整備され、1113年に即位したスリヤヴァルマン2世の時代にそれまでの宗教観、建築技術、装飾、様式を集大成して、ヒンズー教の神々を祀る施設であり、自らの墳墓でもあるアンコールワットの建設を開始し、約30年間で完成させた。大環濠、参道、回廊、塔堂からなる壮大な伽藍配置は神々の世界を具現化し当時のクメール人の宇宙観を示すものと言えます。

③アンコールトム

1181年～

1177年チャンバ軍に攻め込まれ、アンコール都城を占領されるが1181年ジャヤヴァルマン7世がトンレサップ湖で勝利して王朝を奪回した。ジャヤヴァルマン7世は敬虔な仏教徒で、建設王とよばれ、最大の仏教建築遺跡としてアンコール・トムを建立した。その後、インドシナ半島の大部分を支配する大王国へと発展した。

④王朝衰退

1431年～

栄華を極めたアンコール王朝はジャヤヴァルマン7世の死後拡大と衰退が始まり15世紀前半にアユタヤ王朝に滅ぼされ廃墟となって密林の中に眠る事になる。

⑤遺跡発見

1860年

16世紀にこの地を訪れたスペイン人やポルトガル人の宣教師たち修行者により一部の遺跡調査がなされて、アンコール遺跡の偉大さが書物に残されたりしたが世間に知られることにはならなかった。

その後、1860年にフランス人アンリムアがアンコール探訪記を雑誌に発表してから世紀の大発見として世界の注目を浴びる事になった。

⑥クメール語

アンコール: 町、都	パライ: 貯水池	ワット: 寺、寺院
スレイ: 女性	プノン: 山、丘	メソ: 思慮溢れる母、大池中寺院
トム: 大きい	プリヤ: 聖なる	メル山: 須弥山

2) アンコールワット遺跡

①はじめに

・天空に近づくピラミッド型石造寺院

建築年代: 12世紀半頃

建築者: スリヤヴァルマン2世

様式: アンコールワット様式

信仰: ヒンズー教

遺産: 1992年世界文化遺産

アンコールワットは12世紀前半にスーリヤヴァルマン2世によって30年あまりの年月を費やし建造された巨大な石造寺院である。
ヒンズー教のヴィシュヌ神に捧げると共に王自身の墳墓として建造されたもの。周囲は長さ5.6kmの環濠で囲まれ、西塔門から真直ぐのびる参道を進むと中心に向かって高くなる3重の回廊があり、中央には世界の中心であるメル山(須弥山)を模した塔堂がある。中央に歩むほど天界へと近づくピラミッド型の大伽藍は当時の建築技術の高さと優れた芸術性に溢れ、当時のクメール人宇宙観・宗教観を象徴する建造物である。

②遺跡の概要

- 遺跡入口** アンコールワットへの正面入口は、寺院の西参道側の西塔門で石畳が真直ぐ540m続き大海を意味する壕を渡ると参道両側欄干に、ヒンズー教の蛇神ナーガが配置されている。
- (第1回廊)**
西面南側 一番外側の第1回廊は高さ5M、東西200M、南北180Mで一周は760M。第1回廊正面右手は古代インドの叙事詩「マハーバータ」のレリーフがある。パンドヴァ族とカウラヴァ族が王位を巡り戦う物語が描かれている。
西面北側 兵士・馬・車・武器が細密に描かれており当時の戦争のスタイルが良く解る。西面左側には、ヒンズー教の祭典「ラーマヤナ」神話がえがかれている。英雄ラーマ王子率いる聖軍の隊長である猿の軍団ハヌマンが悪魔ラヴァーナを討つ大迫力シーンである。
南面西側 南面にはアンコールワットを建立したスーリヤヴァルマン2世の行軍の様子が描かれている。
南面東側 奥の東面には「天国と地獄」が上段に天国、下段に地獄と対照的に描かれており、中段には死と裁判を司るヤマ神が裁定を下している。特に針地獄、ムチ打ち刑、火責め、舌抜きなどがリアルに描かれている。
東面南側 東面南側のレリーフにはヒンズー教の天地創造の神話、不老不死の妙薬アムリタを入手するために神々と阿修羅が大蛇の網を引き合い乳海を攪拌する「乳海攪拌」が描かれている。
- (第2回廊)** 第1回廊から第2回廊へ進む途中に南北に交叉する「十字回廊」がある。回廊内部は4つの池になっており信者が礼拝前に沐浴した場所と言われる。17世紀にここを訪れた日本人「森本右近太夫」による日本語墨書が残る。第2回廊は東西115M、南北100M、1周430Mあり、外壁には女神デーヴァターの彫刻が無数にある。
- (第3回廊)** 第3回廊は1辺60Mの正方形で中央にメル山を模した地上65Mの祠堂と4隅に塔が配置されている。中央祠堂には過って、ヴィシュヌ神と王が合体したヴィシュヌ・ラージャ神王像が祭られていた。

3) アンコールトム遺跡

- ①はじめに** ・密林の中に浮かび上がる王城
 建築年代: 12世紀後半から12世紀初頭
 建築者: ジャヤヴァルマン7世
 様式: バイオン様式
 信仰: 大乘仏教
 1181年、ベトナム中部のチャンパ王国に支配されていた王国を奪還して王位についたジャヤヴァルマン7世がクメール王国再建のために造営した城塞都市。観世音菩薩を祀る仏教寺院バイオンを中心に、神殿、王宮、テラスなど様々な施設が点在する。大きな町を意味する「アンコールトム」は12世紀末から13世紀初頭にクメール王国最後の王「ジャヤヴァルマン7世」によって建立された都市で当時ヤシャダプラと呼ばれていた。都は113M幅の環濠と高さ8M、1辺3KMの壁で囲まれた城塞となっており、外部へ通じる5つの城門は朝開き、夜は閉じた。場内は主要道路が十字に走り、中心には仏教寺院のバイオンが聳えている。
 林立する四面観世音菩薩像や庶民の暮らしや戦争を描いたレリーフがある。アンコールトム全ての四面仏は東西南北を向いて四方に隈なく慈光を放つ。アンコールトムは1辺3KMの正方形土地でこれを四つ切にすると中心がバイオン。アンコールトムを4分割すると主要な施設は北西部に建造されている。
 ・北西部: 王宮、ピミヤカス、ハブーオン、象のテラス
 ・北東部: プリヤピトウ、12の塔、北クリヤン、勝利の門
 ・南西部:
 ・南東部: 死者の門

②遺跡の概要(アンコールトム)

南大門

アンコールトムには5つの門があり、アンコールワット側から南大門が入口となる。南大門に向って左側に54体の神々、右側には54体の阿修羅像が並び、どちらも大蛇ナーガを網にして引き合っている。

バイヨン

門の上にはジャヤバルマン7世が最も崇拝した巨大な観世音の四面仏が彫られている。南大門をくぐるとアンコールトムの中心となる寺院、バイヨンが現れる。

2

バイヨンは神々の棲む聖域とされるメル山(須弥山)を模したもので世界の中心と言う意味をこめて建造された。城壁はヒマラヤを、壕は大洋を表し、正面はテラスのある東側で寺院内には高さ42Mの中央殿を取り囲むように16の尖塔が林立して、その頂部には「クメールの微笑み」と呼ばれる表情豊かな観世音菩薩の巨大な顔が刻まれている。回廊の壁には当時の貴族や庶民の生活の様子を表す彫刻がまた、バイヨンの中心に聳える中央本殿の塔内部には当時リンガが祭られていた

(第1回廊)

第一回廊にはジャヤヴァルマン7世が統治していた頃のクメール人の生活の様子が描かれている。

東面南側

王の行軍の様子、クメール戦士や顎鬚を生やした中国人傭兵が見られる。更には料理を造る人、市場の競りの様子や踊り子の姿が見られる。

南面東側

正面の南面右側には、上部が水上尖塔の様子が、下部には投げ網を打つ漁師、闘鶏やチェスに興じる様子など人々の活気に溢れる暮らしが描かれている。

南面西側

象軍を主体としたクメール軍の行進とテインバ軍との戦いの様子。

西面南側

建築の様子と虎から逃げるバラモン僧など

西面北側

退却する軍

北東面

敗軍や合戦の様子

(第2回廊)

東面南側

2人の武将の戦い、王や王妃の行列、小鳥を持ったデヴァダー

東面北側

車に乗る王と王妃

南面東側

王妃や王宮の様子、ライオンと戦うクリシュナ

南面西側

顎鬚を生やしたシヴァ神とヴィシュヌ神

西面南側

カルーダに乗ったヴィシュヌ神、てこの原理で石を積み上げる様子。

西面北側

乳海攪拌など

北面西側

大蛇ナーガと動物たち、船に乗る王と王妃、ナンティン牛に乗るシヴァ神

北面東側

シヴァ神とウマー、アルジュナとシヴァとの戦い、カラス山を揺るがすラーヴァナ

[パパーオン]

1060年頃

アンコールトム以前にあったヒンズー教の寺院ウダーデーティヤヴァルマン2世により建設された。

[2] 「インド神話」紀行 (ベトナム・カンボジア)

1) インド神話巡り紀行 (ベトナム・カンボジア)

はじめに

H19(2007)11月24日～30日に駆けて旅した憧れのアンコールワット訪問の記録。東南アジアで特に興味を抱いていた遺跡を観光し、大いに感動。

仏教とヒンズー教の歴史遺跡で”クメールの笑み”と言われる微笑んだ巨大な石造の観世音菩薩の林立した寺院建築と壁面に描かれた教典絵巻物等の石彫壁画が特に有名。(1860年にフランス人植物学者により発見された)

エジプトのピラミッドと同様に単なる仏教・ヒンズー教の遺跡ではなく灌漑用水利用、一般人民救済用の目的もあったのではとされている。

日本は国際協力開発援助ODA(OFFICIAL DEVELOPMENT ASSISTANCE)の実績によりベトナムから感謝され大変良好な関係にあるが経済的には中国、韓国の進出が著しく、日本はODAの貢献にも拘わらず出遅れている。

特徴

・ベトナムと言えば仏領、ベトナム戦争、ベトナム料理、仏教国など。

・インドシナ5カ国(ベトナム・ラオス・カンボジア・タイ・ミャンマー)は日本人に似る温厚な民族

・フランス統治(1887～)以前の11世紀頃リー王朝は大越と呼ばれ中国系の支配

・滅菌室育ちの日本人には豊富な果物も現地の水洗を食べると高熱と下痢症状

・カンボジアはホルボト派の大虐殺が闇に葬られ、当時の関係者も殆ど亡くなっている
関空から出発して5～6時間でベトナムのハノイへ到着。ホテルには深夜到着。

第1日目

(11/25)
ベトナム・ハノイ
首都

飛行時間もそれ程長くはなく、当日の気候は意外と湿気と暑さを感じさせない。
(ハロン湾クルーズ)・・・海の桂林と呼ばれ、竹の子のように聳える奇岩の島々
非常に幻想的な形の島々で海の楽園にいる様なロマンチックな風景
ハロン＝龍が降りたの意味
タロン＝龍が昇るの意味
(タロン水上人形劇)・・・他国に無い素晴らしいベトナムの人間国宝的な芸術遺産
水面上の人形を舞台裏の黒子が水に浸かりながら操作する人形劇

3

第2日目
(11・26)
ハノイ
首都

(ハノイ市内観光)
・ベトナム現代文化とは・・・オートバイ地獄(バイク1台に4人乗りも!)
オートバイ交通地獄(道路にアクロバットに近い4列で左右前後満杯恐怖の走行)
日本製(ホンダ)バイクが最高品で全体の6割と圧倒的な人気、2位はスズキ
(ベトナム全体のバイク:2000万台/8000万人、ハノイ:150万台/350万人)
道路は信号機が少なく高速道路(?)でも無理やり歩行者横断が当たり前
交通事故が少ないのが不思議(オートバイの曲乗り世界一か?)
・ベトナム・特にカンボジアはまだまだ貧困に喘いでいる状況
・ホーチミンには彼の遺体が特殊な防腐処理でそのまま保存されている
(毎年1回ソ連へ運ばれ防腐処理される。レーニンと世界で3人だけ)

第3,4日目
11/27-28
(カンボジア)
シエムリアップ
アンコールトム

(アンコール・トム)＝大きな都市を意味する
・12～13世紀にクメール王国最盛期のジャヤバルマン7世が建造
・1辺が3kmの壁で囲まれた城塞都市で中心にバイロン寺院(須弥山)がある
・バイロンは仏教寺院で林立する四面観世音菩薩のクメール微笑みの石造顔が特徴
(バイロンは仏教の須弥山をイメージし、城壁はヒマラヤ、堀は太洋を表す)
・アンコール・トムの壁面レリーフは当時庶民の生活・戦闘の様子を描いている
・余りにも広いので場内をマイクロバスで移動
・入口南大門前はヒンズー教の守り神・阿修羅・コブラがあり仏教とヒンズー教が混在する
・早朝の日の出鑑賞の場で、現地人が野良犬を見つけて美味しそう発言(犬肉喰習慣)
(アンコール・ワット)＝ワットはヒンズー教寺院で後にタイ国アユタヤの影響もあり仏教寺院へ
・12世紀にスーリヤバルマン2世によって建造された巨大なヒンズー教石造寺院・王様の墳墓
・中央に須弥山塔堂、ピラミッド型大伽藍を配置し、壁面のレリーフは古代インド叙事詩の
絵物語「マハーバータ」、地獄の様子を示す「天国と地獄」、天地創造の神話「乳海攪拌」
ヒンズー教の聖典からウシシュニ化身ラーマ王子と猿軍団が悪魔を討つ「ラーマヤナ」等の絵巻

アンコールワット

第5日目
(11/29)
(ベトナム)
ホーチミン
経済都市

(ホーチミン)＝今でも現地民はサイゴンと呼んでいる
・ホーチミンはベトナム戦争時の南ベトナムで最近まで(今も)サイゴン。
・メコン川下流域のメコンデルタ地帯で亜熱帯性気候により果物・魚に恵まれる
・フランス統治下様式の建造物:サイゴン大教会(マリア教会)、中央郵便局等
・驚きの華麗なる長蛇の葬儀行列(豪華大名行列並みの葬式列)
(メコン川クルーズ)へバスで移動中に大名行列並みの葬儀の行列に遭遇。長さ
数キロに渡り霊柩車・親族・参列者・更にアルバイト参列者等が続き、音楽が
流れ悲しむ人は僅かで豪華で明るい仏式の葬儀(こちらでは中国式と呼ぶ)

その他

・評判のベトナム料理;比較的日本人に合うあっさり味

フォー・ホー・ガ(鶏肉と肉入りの米粉製麺＝日本のそうめん)は特に人気
デン・チャー・ジョー(生・揚げ春巻き)
スン・ヘオ・サオ・チュア・ゴット(中華酢豚風:スヘアップの甘酢あんかけ料理)
ボー・クアン・ゴン(牛肉炒めコンスタイル)
エレファント・イヤ・フィッシュ(象の耳に似た魚の意:真水の魚で鯛風味)

・半袖と虫よけ

暑くて半袖の場合、蚊にかまれるとマラリアの心配があり長袖シャツ
と虫除けスプレーを準備したが蚊はいなかった。(11月だから?)

・ベトナムの貨幣(ドン)

・ベトナム貨幣のドンは朱印船貿易時代の日本の銅貨が銅本位制(?)
の役割を果たして、日本語の銅が訛り貨幣制度ドンの起源となる

・カンボジアのビザ

カンボジアはまだまだ生活レベルが低く、ビザは貧乏国救済の意味で
残っており結構高い(手数料を含めて約8000円)

・オイル恐慌(オイルマネーファントがサブプライムのドルに投資後、焦付き年末には大恐慌?※)

現在のオイルショックはオイル資本への投資過熱による悪循環により

4

累加的なインフレ現象を招いている。その影響で航空機利用料金も暫定的に「オイルチャージ」追加料金制度が認めており旅行者には円安とのダブルパンチ発生。(長距離では油代25000円追加)
※円はドルに対してのみ円高、他国には円安傾向、又米国サブプライムの銀行資金不足の救済として投資している産油国のオイルマネーは米国ドルと諸共に下落し、油価格も下落？で今年の年末に世界的な金融恐慌が起きる可能性が心配されている。
(米国のサブプライム問題が早期に収束して油価格・世界経済の安定を祈る)